

クサムスビ

EXTRA
ISSUE

北國・富山新聞

おてらくご
於浄光寺

去る五月十日、午後七時より「おてらくご」が当寺にて初開催されました。

「おてらくご」とは「お寺」

「落語」のこと。要は落語を縁にお寺に足を運んでいただき、仏法にも触れていただくというわけです。

当日は雨天にもかかわらず、120名の方が足を運んでくださり大盛況。

先ずは、正信偈のお勤め。続いて、当寺若院による法話。「笑いの世界」と「念仏の世界」の共通点を通して親鸞聖人は何を喜びとされ

正信偈の
おけいこを
しているよ



たのかたずねたましました。また、新しい試みとして、正信偈と法話ではiPadとプロジェクターを駆使。

そしてお待ちかねの落語の時間。噺家は立川流一門の立川吉幸さん。出囃子「春風がそよそよ」と共に登場すると雰囲気が一変。吉幸さんの巧みな話術により、あつという間に笑いの世界へと引き込まれ、終始本堂に笑い声が響き渡りました。浄土の風、そして江戸の風を肌を感じつつ住職の感話をもって閉会しました。

追弔会

8月13日・午前10時
法話ライブ・靈河秀樹

二十年前には、大暑の中、氷柱を立て、扇風機にて汗をかきながら、畳に正座して経を頂き、法廷ほうてんにあづかった事を想い出しております。暑い旧盆に合わせましたのも、平生疎遠になりがちな家族の方々も、ご先祖や諸々の縁に在ることに目覚める恰好な時處と思つたことに他なりません。毎回積んだり崩したり、試行錯誤しながら執り行っております。どうぞ大きな力に誘われ浄土の徳風まします処にお越しください。



今回は、玄性寺住職、靈河秀樹師を越前よりお招きすることになりました。福井県民の歌「九頭竜川」の作者として知られる師が、心温まる歌声をギターの音色に載せ、仏法をやさしく語って下さいます。尚、幾多のご縁により、従来の暑さから少し解放され、幾分なりと気持ちの良き環境となりました。

きこまいけ

毎月28日・午後2時

皆様と共に親鸞聖人の教えを聞く場として、この度「きこまいけ」を発足する運びとなりました。まずは、「正信偈」に学びたいと思います。

内容 正信偈の練習と教え

テキスト 「赤本」

どなたさまにもご参加いただけます。どうぞお気軽にお越しくださいませ。

本堂に空調を新設

床下式冷暖房

この度、本堂に空調を設置させていただきました。

本堂という厳粛な空間への配慮と調和、さらに環境負荷の軽減などを考慮した結果、床下式空調を採用。それは、床面に吹出し口と吸込み口を配置することに

今月の掲示

後ろの車に

気づくことなく

歩いておつた

クラクションは仏様

よって、高さ2メートル位までを空調する効率の良い方式。

そこで、床下式空調設備を多数手がける東京の佐藤英治氏に設計を依頼。氏は、金沢二十一世紀美術館をはじめ世界中の有名建築の空調設計を手がける、いわば空調のスペシャリスト。

その佐藤氏は「泉効果」とよく口にする。泉が湧き出るが如く床面から静かに、そしてゆるやかに湧き出てくる心地良い風。それはきつと自然と手が合わさるような空間の実現を意味しているはずで。遅ればせながら、環境は整いました。是非のご活用を！